

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 畜産

発行日 平成28年 6月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net/agri/>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 二番草の刈取りは、適期に行いましょう。チモシー 一番草後の施肥は忘れずに！！
- ◆ 更新後草地の状況によっては簡易更新で植生改善をする！
- ◆ 暑熱対策のおさらいを！泌乳牛は一度体力を落とすとなかなか元には戻りません。

1 飼料作物

(1) 二番草の収穫など

ア チモシー 一番草刈取り後施肥の重要性

チモシーは一番草刈取り後に新旧分けつの世代交代をおこないます。よって新分けつ発生を促進させ、翌年の多収を実現する上で一番草刈取り後の施肥は極めて重要です。この時期の施肥を省略してしまうと新分けつ発生量が減少し、茎数密度が維持できず翌年の収量が減少します。

一番草刈取り後 10 日目ごろに施肥します。肥料の種類は速効性で肥効の優れる化成肥料の使用を推奨します。「チモシーは一番草しかとらないから一番草収穫後に施肥はしない」というのは翌年の収量を減少させることとなりますので、一番草収穫後にも必ず施肥を実施しましょう！

イ 二番草の収穫

収穫時期は、一番草収穫後から 40～55 日が目安です。土壌及び牧草の水分が高く、気温の高いこの時期は、牧草が蒸れ上がり易いので、刈遅れないようにします。

極端な低刈りは、地温の上昇から高温障害を受ける恐れがありますので、刈取り高さは 10～15cm (握りこぶし1つ分ぐらい) とします。

ウ 収穫後の施肥

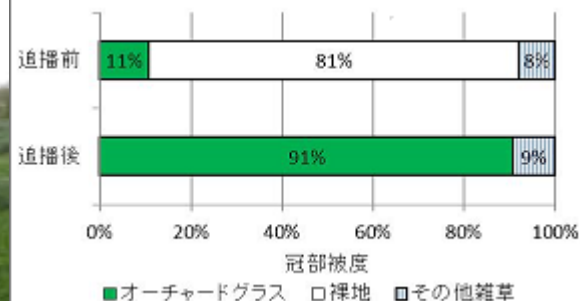
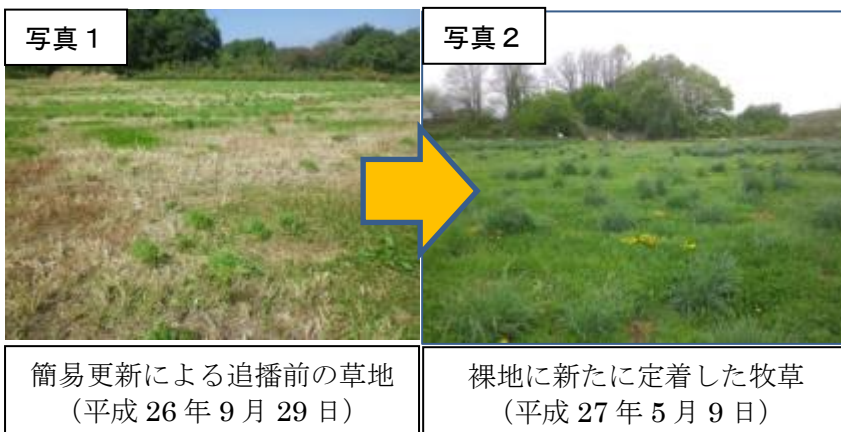
三番草の生育促進のため、二番草収穫後、できるだけ早く施肥します。施肥量は、10a あたり窒素 5kg、リン酸 2.5kg、カリ 5kg です。尿散布を行う場合は、肥料焼けを防ぐため、曇天や降雨前後に行いましょう。

(2) 完全草地更新の失敗を補う簡易更新

ア 簡易更新による追播

気温が低下し、雑草の草勢が弱まる時期(概ね盆明け～9月下旬)に簡易更新を実施すると、完全更新でうまくいかなかった圃場を改善できる場合があります。

下の写真は平成 25 年春に完全草地更新を実施した後、干ばつにより牧草が定着せず裸地が多くなってしまった草地ですが、平成 26 年秋の簡易更新で植生をうまく改善できた事例です。



※平成27年度畜産研究所 試験成績書より

図1 追播後の植生改善の状況

(3) 飼料用トウモロコシのクマによる食害防除

ア 電気柵は早めに設置し、直ちに昼夜問わず通電させます。

設置しても通電しないと、クマは「電気柵は痛くない、怖くない」といった逆の学習をしてしまいます。お盆前には必ず設置、直ちに通電を！！7月中に行うのが理想！！
 電気柵の設置は被害にあってから・・・では手遅れです！！なぜならクマの心理が【電気柵が怖い < 農作物を食べたい】となり、侵入の可能性が高くなってしまいますからです。

また、トウモロコシの草丈がまだ小さいうちだと電気柵の設置作業もラクです（写真3）。

イ 電圧は通電時に最低5,000ボルト確保できるような電牧器を選択しましょう。

電圧は定期的にチェックし、電圧が維持されているか確かめましょう！！

正常時の電圧を電牧器本体に記録しておくと異常に気づきやすくなります。（写真4）

ウ 圃場周辺のクマの侵入経路（竹やぶ、ススキ）を刈倒し、見通しをよくします（写真5）。

圃場外周の見通しが悪いと、クマに電気柵を視覚的にアピールするための効果が低下します（電気柵は痛いものという学習効果が低下）。



トラクター作業の終了後、早めに設置して通電開始！！



設置日と電圧を記録



大事なのはクマに電気柵を認識させ、接近しないことを学習させること！！

2 暑熱の影響の緩和

東北地方の1か月予報（仙台管区气象台、6月23日発表）によると向こう1か月の気温は平年並みまたは高い確率が40%です。今夏の暑熱対策は平年にも増して力を入れましょう。

(1) 牛舎内温度、牛の体感温度を上げないようにします。

輻射熱や直射日光（西日）の遮断、換気・送風量の確保に気をつけてください。

泌乳牛は夏に体力が低下すると涼しくなってもすぐに体力は元に戻りません。

(2) 飼料と水に注意します。

新鮮な水を十分に飲水できるように、給水量の確認と、水槽のこまめな掃除を行います。つなぎ牛舎で夏場にウォーターカップ（WC）での水遊びが頻繁に観察される場合は、WCの掃除をおこない臭いや汚れを取りましょう（特に押しペラの裏も念入りに！）。

また、嗜好性の良い粗飼料の給与に努めます。嗜好性の良い飼料（配合飼料やビートパルプを水で戻したものなど）をふりかけるなど、採食意欲を高める上で有効です。

(3) 採食量の低下を最小限にしましょう。

外気温が低い夜間～早朝に採食を促すよう、就寝前のエサ押しや給与時間などを見直しましょう。

(4) 粗飼料の摂取量や乳量・乳成分の低下への対応

ア 粗飼料の摂取量、反芻回数と唾液分泌量が減少するため、配合飼料の給与量の多い搾乳牛では、ルーメン pH 低下によるアシドーシスが懸念されます。配合飼料の給与回数を増やす（少量頻回）、重曹（100～200g/日・頭）給与などを行います。

イ 発汗の増加により、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、リンなどのミネラル要求量も通常の10～20%増加します。乾乳後期牛を除き、鉍塩を切らさないようにするとともに、重曹やリン酸カルシウムを増給します（放し飼いの場合は自由採食による供給も可）。



放し飼い牛舎での重曹の自由採食

次回の発行予定日は7月28日(木)です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しています。発行年月日を確認のうえ、最新の情報をご利用ください。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。